

平成28年度
北海道博物館 事業実績

平成29年 5月

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ・ 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ・ 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- ・ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。
- ・ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。

| | |
|------------|--------|
| 資料審査会の実施回数 | 7回 |
| 資料登録件数 | 1,675件 |

(2) 収蔵機能の強化

- ・ 収蔵資料データベースに資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- ・ 災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ・ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

(3) 資料保存環境の維持

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

| | | |
|-----------------------|---|------|
| 資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 | | 12回 |
| IPMに関わる作業の実施回数 | | 469回 |
| IPM関連の作業 (内訳) | ①捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査） | 12回 |
| | ②収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査 | 1回 |
| | ③特別展示室と収蔵庫の空気質調査 | 3回 |
| | ④基盤Gと保存担当者による収蔵庫清掃 | 11回 |
| | ⑤全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除 | 1回 |
| | ⑥新展示ケースなどのからし作業 | 7回 |
| | ⑦収蔵庫搬入前の資料について二酸化炭素殺虫処理(殺虫バッグ) | 15回 |
| | ⑧収蔵庫内巡回（ロガー目視と害虫の除去） | 302回 |
| | ⑨その他、収蔵庫内の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、異常時対応） | 117回 |

(4) 収蔵資料の利用への対応

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ・ 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- ・ 障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ・ 総合展示のメンテナンスに努める。
- ・ 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- ・ 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値と実績値は、次のとおりである。

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|-----------|----------|-----------|
| 総合展示室利用者数 | 80,000 人 | 108,374 人 |
| うち外国人利用者数 | 4,000 人 | 4,417 人 |

| クローズアップ展示 入れ替え | | 24 件 |
|----------------|------------------|------|
| (内訳) | クローズアップ展示①（1テーマ） | 6 回 |
| | クローズアップ展示②（1テーマ） | 6 回 |
| | クローズアップ展示③（2テーマ） | 3 回 |
| | クローズアップ展示④（2テーマ） | 2 回 |
| | クローズアップ展示⑤（3テーマ） | 2 回 |
| | クローズアップ展示⑥（4テーマ） | 2 回 |
| | クローズアップ展示⑦（5テーマ） | 3 回 |

(2) 企画展示の開催

- ・ 民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。
- ・ 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ・ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|-----------|----------|----------|
| 特別展示室利用者数 | 63,400 人 | 87,515 人 |

| 特別展・企画テーマ展名称 | 期間 | 実績 |
|---------------------------------------|---|----------|
| 【特別展】 ジオパークへ行こう！ | 平成 28 年 7 月 9 日～9 月 25 日 | 59,243 人 |
| 【企画テーマ展】 神様おねがい！ | 平成 28 年 2 月 27 日～4 月 10 日 ※実績は平成 28 年度(4 月 1 日～4 月 10 日) 分の入館者数 | 1,370 人 |
| 【企画テーマ展】 アイヌ民族資料を守り伝える力 | 平成 28 年 4 月 28 日～6 月 5 日 | 9,419 人 |
| 【企画テーマ展】 きれい？不思議？楽しい！？漂着物 | 平成 28 年 10 月 14 日～11 月 27 日 | 6,139 人 |
| 【蔵出し展】 アイヌ民族の造形美 | 平成 28 年 12 月 22 日～平成 29 年 1 月 15 日 | 1,632 人 |
| 【企画テーマ展】 あったかい住まい | 平成 29 年 2 月 3 日～3 月 31 日 | 5,445 人 |
| 【巡回展】 2020 年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる | 平成 29 年 2 月 3 日～3 月 17 日 | 4,267 人 |

| 巡回展名称 | 実績 | |
|--|-----------------------------------|---------|
| 【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2016 枝幸 | 平成 28 年 7 月 5 日～9 月 4 日 | 2,705 人 |
| 【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2016 美幌 | 平成 28 年 10 月 8 日～11 月 27 日 | 1,014 人 |
| 道民参加型企画展名称 | 期間 | |
| 北海道民のちゃれんが展示コーナー！ | 平成 28 年 1 月 29 日～平成 29 年 3 月 31 日 | |

(3) アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

ア 総合展示室の運営

以下の 3 点について、所管グループとの連携の下、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第 2 テーマのクローズアップ展示 3、4 のほか、他テーマでもアイヌの歴史・文化を主題とするクローズアップ展示を企画・実施し、アイヌ文化に関する展示を充実させる。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを早期から行う。

② 「アイヌ文化 Q & A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- ・ 入替え計画を作成し、実施体制を整備する。
- ・ i P a d を利用して衣服を紹介する展示を実施し、画像更新の体制を整える。

イ 企画展示の開催

- ・ H 2 8 年度に開催する蔵出し展の要項などを早期に具体化し、円滑な実施と内容の充実を図る。
- ・ アイヌ民族文化研究センターが主催する企画展示について、H 2 9 年度以降の開催計画を策定する。
- ・ 計画の策定にあたっては、研究成果やアイヌ文化関係者のニーズを踏まえた企画を検討するほか、道民とりわけアイヌ文化関係者が参画する機会を積極的に企画する。

ウ 巡回展の開催

- ・ アイヌ文化に関する理解のいっそうの促進を図るため、道内市町村等との協力のもと、「地名」や「物語」などを主題にした巡回展を企画し、実施する。
- ・ 巡回展の開催にあたっては、地域的なバランスやニーズを踏まえて地域を選定し、研究センターの強みや当館が自然・歴史・文化の総合博物館であることを活かした関連事業を企画する。

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

- ・ 地域情報集積プロジェクト 5 課題、「自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト 4 課題、アイヌ文化に関する調査研究プロジェクト（個別課題は「アイヌ文化に関わる調査研究」に別掲）を前年に引き続き実施する。
- ・ 調査研究のあり方を検討し、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作りや、道民の研究成果発表の場の提供について検討を進め、実施する。
- ・ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究を継続して実施する。
- ・ 目標を明確化し、定期的な検討会や調査研究の時間確保など、研究体制を整備する。
- ・ 月 1 回の定例研究報告会を継続して実施する。
- ・ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、新規課題の申請を積極的に行う。

- ・ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。

| 「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5課題） | |
|---|--|
| ・ 野幌森林公園の生物インベントリ調査（自然研究 G） | |
| ・ 北海道における漂着鯨類についての基礎的情報の集積と活用（自然研究 G） | |
| ・ 地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用（歴史研究 G） | |
| ・ 戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査（生活文化研究 G） | |
| ・ 北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査（博物館研究 G） | |

| 「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（4課題） | |
|--|--|
| ・ モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史（生活文化研究 G） | |
| ・ 石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元（自然研究 G） | |
| ・ 北方四島の考古学的研究（歴史研究 G） | |
| ・ 北海道におけるツルの自然史と文化史（歴史研究 G、自然研究 G） | |

| 「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2課題） | |
|--|--|
| ・ 北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州） | |
| ・ 寒冷地の自然と適応－博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究－（カナダ・アルバータ州） | |

| 科学研究費補助金による研究課題（17課題） | | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------|---|-------|
| 継続 | 基盤研究(B) 一般 | 平成 27～30 年度 | 小氷河期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響 | 添田雄二 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 24～28 年度 | 北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究 | 小林孝二 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 25～28 年度 | 北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究 | 三浦泰之 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 25～28 年度 | 古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎研究 | 鈴木琢也 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 25～29 年度 | 西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民族学的研究 | 舟山直治 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 26～28 年度 | アイヌ民族資料の X 線 CT による現況調査及び長期保存方針の策定に関する基礎的研究 | 杉山智昭 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 26～28 年度 | シュミット線とサハリン先住民の植物資源：環境の多様性から見た文化の地域的多様性 | 水島未記 |
| 継続 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 27～29 年度 | 高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発 | 青柳かつら |
| 継続 | 若手研究(B) | 平成 26～28 年度 | 海岸漂着物を用いた環境教育と博物館でのアウトリーチ活動 | 圓谷昂史 |
| 継続 | 若手研究(B) | 平成 27～29 年度 | 「アイヌ絵」の成立展開についての基礎的研究 | 春木晶子 |
| 継続 | スタート支援 | 平成 27～28 年度 | 北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究 | 甲地利恵 |
| 継続 | スタート支援 | 平成 27～28 年度 | アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究 | 遠藤志保 |
| 新規 | 基盤研究(B) 海外学術調査 | 平成 28～31 年度 | 資料返還をめぐる先住民と博物館との新たな関係性の構築に関する文化人類学的研究 | 出利葉浩司 |
| 新規 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 28～30 年度 | 近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置：その歴史的意味に関する基礎研究 | 小川正人 |
| 新規 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 28～32 年度 | 蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究 | 東俊佑 |
| 新規 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 28～31 年度 | 近代の北海道と周辺地域における生物の人為的移入に関する研究 | 山田伸一 |
| 新規 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 28～32 年度 | 北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究 | 会田理人 |

| 科学研究費補助金による研究課題への研究分担者としての参加（2 課題） | | | | |
|------------------------------------|---------|-------------|---|------|
| 継続 | 基盤研究(C) | 平成 26～29 年度 | サハリン・アムール地域の言語地図（研究代表者：札幌学院大学 白石英才） | 水島未記 |
| 新規 | 基盤研究(B) | 平成 28～31 年度 | 寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究（研究代表者：東北芸術工科大学 石崎武志） | 杉山智昭 |

| 共同研究への参加（科学研究費補助金以外）（2 課題） | | | | |
|----------------------------|--|-------------|---|------|
| 継続 | 日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学的研究推進事業」実社会対応プログラム（公募型研究テーマ） | 平成 27～30 年度 | 日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互関連に関する研究（研究代表者：星城大学リハビリテーション学部 齋藤貴之） | 会田理人 |
| 新規 | 人間文化研究機構基幹研究プロジェクト | 平成 28～29 年度 | 総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築 | 小川正人 |

| | |
|-----------|------|
| 館内定例研究報告会 | 12 回 |
|-----------|------|

（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

ア 調査研究事業

- ・ アイヌ文化に関する研究課題を、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト」と「「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト」の体制に沿って整理するとともに、サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究にも参加する。
- ・ 研究内容とその成果提供を充実させるため、外部資金の獲得を目指す。

イ 資料収集と整備

- ・ 調査研究計画の中に資料の調査を位置付けるとともに、各事業などと連動して資料調査を行うなど、組織的な調査体制を強化する。
- ・ 新規に受入れる資料などは年度前半に資料整理計画を策定し、登録及び保存などを実施する。
- ・ 「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録を進める。
- ・ 民具資料の整理は、H31年度までに完了するよう所管グループとも協議して計画を策定し、その作業は展示事業とも連動させ継続的に進める。

| アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4 課題） |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（H26～29） ・ アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（H24～28） ・ 道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究（H22～28） ・ 道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（H28～31） |

| アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4 課題） |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（H28～31） ・ 近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（H28～31） ・ 教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（H28～31） ・ アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（H26～31） |

ウ 資料公開

- ・ プライバシー情報などを含む資料の公開手続きにかかる要領を定め、未公開資料の公開計画を策定する。

- ・ 上記を踏まえ、「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の公開を順次進める。
- ・ 採録資料の公開作業を進め、年間公開点数の増加を図る。

4 北海道開拓の村の整備

- ・ H28年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって建造物の補修工事などを実施する。
- ・ H29年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。
- ・ 北海道開拓の村建造物の内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。
- ・ 北海道150年に向けて、「百年記念施設のあり方検討会議」を通した北海道開拓の村のあり方について、具体的な検討を進める。

| | |
|---------|---|
| 建造物補修工事 | 旧広瀬写真館補修工事（第2期） 工事期間：平成28年8月31日～11月30日 |
|---------|---|

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ・ 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。
- ・ 利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画などの見直しを行ない、事業の改善・充実化につなげる。

イベントの参加者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|----------|---------|----------|
| イベント参加者数 | 3,900 人 | 12,708 人 |

| (イベント参加者数 内訳) | | | |
|---------------|---------|-----------|---------|
| ちゃれんがワークショップ | 329 人 | ハンズオン | 552 人 |
| ちゃれんが子どもクラブ | 658 人 | ミュージアムトーク | 227 人 |
| 講座・講演会 | 1,633 人 | ハイライトツアー | 1,011 人 |
| 特別イベント | 3,285 人 | ちゃれんがラリー | 1,095 人 |
| 館外 | 28 人 | はっけんイベント | 3,890 人 |

| グループレクチャー | | |
|-----------|----------|---------|
| (内訳) | 実施件数 | 173 件 |
| | 参加人数 | 7,273 人 |
| メニュー別実施回数 | | |
| (内訳) | 総合展示みどころ | 104 回 |
| | 第1テーマ | 4 回 |
| | 第2テーマ | 22 回 |
| | 第3テーマ | 11 回 |
| | 第4テーマ | 1 回 |

| | |
|-------|-----|
| 第5テーマ | 5回 |
| その他 | 26回 |

| | | |
|------------|--------------------------|--------|
| はっけんプログラム | | |
| | 実施件数（学校数） | 128件 |
| | クラス数 | 236クラス |
| | 参加人数 | 7,356人 |
| プログラム別実施回数 | | |
| (内訳) | ①クマってこわい？ ヒグマについてもっと知ろう | 13回 |
| | ②アンモナイトで発見！ | 1回 |
| | ③やってみよう アイヌ文化 | 119回 |
| | ④縄文文化のくらし | 38回 |
| | ⑤くらべてみよう！ -くらしの道具 いまむかし- | 56回 |
| | ⑥その他 | 9回 |

(2) 教材の充実

- ・ 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。
- ・ 来館者が総合展示の内容について理解を深めることができるように、多言語に対応した解説サービスを導入・運用する。また、その充実についての取組を進める。

| | |
|-------|---|
| 教材の充実 | |
| (内容) | ①多言語解説「ポケット学芸員」運用開始 (374 コンテンツ×6 言語=2,244 コンテンツ) ②総合展示解説書『ビジュアル北海道』刊行 (2,000部作成) ③プロモーション動画作成 (9種類×6言語=54動画) ④学校向け見学シートひな形 (10件) |

(3) はっけん広場の運営

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ・ はっけん広場をより魅力的な空間にするため、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組を行なう。
- ・ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ・ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を進める。
- ・ 学校などに対応した、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への貸出しを実施するとともに、館外への貸出しを促進するための取組を進める。
- ・ はっけん広場の利用者ニーズを把握するとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、改善・充実を図る。

はっけん広場利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

| | | |
|------------|---------|---------|
| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
| はっけん広場利用者数 | 22,000人 | 27,689人 |

(4) アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

- ・ 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、実施する種類と回数を段階的に増やしていく。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。
- ・ 館外に向けた情報発信や展示紹介をとおして、グループレクチャーの増加を図る。

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・ 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ・ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会について、そのあり方に関する教員の意向調査を行い、方針・計画の検討を進める。

7 道民参加型組織の整備

- ・ 「ミュージアム・パートナー」（仮称）および「友の会」（仮称）を創設し、ボランティア組織や北海道博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ・ 文化庁などの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業（仮称）などの推進と強化を図る。
- ・ 道民参加型組織で行う活動・事業内容を検討し、段階的に実施する。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- ・ アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。
- ・ オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ・ 記念ホールなどの活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」などの検討・策定を行う。

| | |
|-------------------|-----|
| オリジナルグッズ販売数（開発件数） | 9 件 |
|-------------------|-----|

| | |
|-----------|------|
| 新たに設置した設備 | 14 件 |
|-----------|------|

| 施設利用（記念ホール） | | |
|------------------------------------|-----|------------------|
| 特別展「ジオパークへ行こう！」開 会式 | 主催 | 北海道博物館 |
| | 開催日 | 平成 28 年 7 月 8 日 |
| 北海道ジオパークまつり | 主催 | 北のミュージアム活性化実行委員会 |
| | 開催日 | 平成 28 年 7 月 16 日 |
| 文化の日特別イベントアイヌ音楽 ライブ | 主催 | 北海道博物館 |
| | 開催日 | 平成 28 年 11 月 3 日 |
| 外部持込巡回展「秩父宮記念スポ ーツ博物館北海道巡回展」開会式 | 主催 | 北海道博物館ほか |
| | 開催日 | 平成 29 年 2 月 3 日 |

(2) 周辺環境の整備

- ・ 最寄りの J R 駅における交通案内（バス停案内）の多言語化を図る。
- ・ サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）に協力を依頼する。
- ・ 屋上スカイビューの安全な利用を図るため、屋上エレベーター塔屋の外壁改修工事を実施する。

| | | |
|-------------|--|--------|
| 屋上スカイビューの開放 | 開放日 | 5日 |
| | 来場者数 | 2,788人 |
| 周辺環境の整備 | | |
| (内容) | <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 森林公園駅自由通路内に日英表記のバス停案内板を設置、バス事業者が各バス停に付記。 ・ 自然ふれあい交流館周辺木道改修工事を実施 (平成 28 年 11 月 29 日完成) ・ サインの統一化については、土地所有者の考え方の違いや設置費をともなう内容を含んでいることから進んでいない。 ・ 屋上エレベーター塔屋改修工事を実施 (平成 28 年 5 月 13 日～7 月 15 日/7 月 13 日完成) | |

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

| | |
|--------------------------|-----|
| 野幌森林公園の管理運営にかかる連絡会議の実施件数 | 10件 |
| 一体的に実施した広報の件数 | 10件 |

9 広報

(1) 広報活動の強化

- ・ あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開する。
- ・ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、その浸透度を把握する。
- ・ H27年度に開発した北海道博物館プロモーションビデオを積極的に活用し、利用の促進に結びつける。
- ・ 外部からの照会に対する広報活動を継続しつつ、さらに積極的にあらゆる媒体に対しての働きかけを強化する。

ホームページのアクセス数の目標値と実績値は、次のとおりである。

| 設 定 内 容 | | H28 目標値 | | H28 実績 | |
|-----------------------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
| ホームページのアクセス数 (トップページ) | | 138,000 件 | | 219,491 件 | |
| ホームページのアクセス数 月別件数 | | | | | |
| 4 月 | 15,526 | 8 月 | 33,332 | 12 月 | 9,174 |
| 5 月 | 18,073 | 9 月 | 23,762 | 1 月 | 10,661 |
| 6 月 | 17,475 | 10 月 | 14,240 | 2 月 | 12,020 |
| 7 月 | 39,904 | 11 月 | 12,695 | 3 月 | 12,629 |

| | | |
|--------|-----|-------|
| 広報媒体件数 | 新聞 | 129 件 |
| | 雑誌 | 74 件 |
| | テレビ | 64 件 |
| | ラジオ | 5 件 |

| | | |
|----------|----------|-----|
| ロゴマークの活用 | 新聞 | 2 件 |
| | 雑誌 | 1 件 |
| | 外部機関のチラシ | 1 件 |

| | |
|--------------|-------|
| プロモーション映像の活用 | 3 件 |
| ウェブサイトの更新 | 152 回 |

| | |
|----------------|-----|
| 森のちゃれんがニュースの発行 | 4 回 |
| 行事あんないの発行 | 2 回 |
| 要覧 2015 の発行 | 1 回 |

(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」をより誘導力のある空間へと改善するとともに、道内博物館の情報も含めた情報発信機能の強化に向けた取組、特に運用面での取組を強化する。
- ・ 「サイエンスパーク」や「かるちやる n e t」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動を展開する。
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の開設や利用者と直に接する広報活動の展開が、どれだけ北海道博物館への来館へと結びついているか、定量的に把握し改善・充実化への取組を行なう。

| | |
|---------------|-----------|
| 赤れんがサテライト利用者数 | 650,408 人 |
|---------------|-----------|

1.0 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・ 北海道立総合博物館協議会（年 2 回）と北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会（年 1 回）などの円滑な実施と運営を行う。
- ・ 内部評価を実施する。
- ・ アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを計画的に実施する。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|---------|---------|----------|
| 利用者満足度 | 80% | 平均 95.5% |

| 総合展示 | 満足度 | 満足度調査の内訳 | | | |
|-------------------|-------|----------|-----|-----|--------|
| | | たいへん満足 | 満足 | 不満足 | たいへん不満 |
| H28.4.28-6.5 | 93.0% | 46 | 34 | 5 | 1 |
| H28.7.9-9.25 | 92.2% | 232 | 206 | 17 | 20 |
| H28.10.14-11.27 | 95.6% | 43 | 44 | 3 | 1 |
| H28.12.22-H29.1.5 | 100% | 18 | 6 | 0 | 0 |
| H29.3.18-3.31 | 100% | 6 | 6 | 0 | 0 |

| 特別展 企画テーマ展 | 満足度 | 満足度調査の内訳 | | | |
|---------------|-------|----------|-----|-----|--------|
| | | たいへん満足 | 満足 | 不満足 | たいへん不満 |
| ジオパークへ行こう | 85.4% | 346 | 393 | 70 | 56 |
| アイヌ民族資料 | 94.9% | 59 | 53 | 5 | 1 |
| 漂着物 | 94.6% | 69 | 53 | 5 | 2 |
| 造形美 | 100% | 18 | 13 | 0 | 0 |
| オリ・パラ | 95.9% | 19 | 28 | 2 | 0 |
| あったかい住まい | 95.8% | 21 | 48 | 3 | 0 |
| 巡回展（枝幸） | 100% | 49 | 32 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---------|-------|---|----|---|---|
| 巡回展（美幌） | 91.7% | 7 | 15 | 2 | 0 |
|---------|-------|---|----|---|---|

| 調査 | 満足度 | 満足度調査の内訳 | | | |
|--------------|-------|----------|----|-----|--------|
| | | たいへん満足 | 満足 | 不満足 | たいへん不満 |
| オーディエンス・リサーチ | 98.3% | 32 | 25 | 1 | 0 |

1.1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

(2) 博物館交流の促進

- ・ 外部組織・機関との連携・協力などを行うための方針や基準を策定し、連携形態の決定から実施に至る流れを明確化する。
- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ・ 連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

| 設定内容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|-----------------|---------|--------|
| 道内市町村等との連携・協力件数 | 45 件 | 36 件 |

博物館等のネットワークへの参画

4 件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 期間 | 種別 |
|--|-------------------------------------|-------|----|
| 北のミュージアム活性化実行委員会 | 北のミュージアム活性化実行委員会（事務局：北海道博物館） | 通年 | 主管 |
| CISE ネットワーク | CISE ネットワーク実行委員会（事務局：北海道大学総合博物館） | 通年 | 参画 |
| 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク | 札幌市環境局 | 通年 | 参画 |
| 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業「自然史系博物館の収蔵庫を見える化する技法の体系化と実践」 | 自然史レガシー継承・発信実行委員会（事務局：兵庫県立人と自然の博物館） | 8月～3月 | 参画 |

博物館等に関わるイベント等への参加・出展

11 件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|---------------------|-------------------------|-------------|-------|
| 第10回アースデイ円山動物園 | 第10回アースデイ in 円山動物園実行委員会 | 5月21日～5月22日 | 参加・出展 |
| 第5回 CISE サイエンスターリング | CISE ネットワーク運営委員会 | 7月9日～2月26日 | 参加 |
| カルチャーナイト 2016 | 認定NPO法人カルチャーナイト北海道 | 7月22日 | 参加・出展 |

| | | | |
|--|--|--------------|-------|
| 教員のための博物館の日 in 札幌 | 北海道歴史文化財団、国立科学博物館ほか | 7月29日 | 参加・出展 |
| いきものつながりクイズラリー2016 | 札幌市環境局 | 7月16日～10月31日 | 参加 |
| 2016サイエンスパーク | 北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構 | 7月28日 | 参加・出展 |
| 啓成SSH in 光の広場 | 北海道札幌啓成高等学校SSH推進部 | 9月24日 | 参加・出展 |
| ジオ・フェスティバル in Sapporo 2016 | ジオ・フェスティバル in Sapporo 2016 実行委員会 | 10月1日 | 参加・出展 |
| 企画展「日本文化を育んだ自然」 | 自然史レガシー継承・発信実行委員会 | 11月19日～12月4日 | 参加・出展 |
| CISEサイエンス・フェスティバル in 新千歳空港 | 北海道空港株式会社 | 1月14日～20日 | 参加・出展 |
| 第5回CISEサイエンス・フェスティバル in チ・カ・ホ ～つなげる！ひと・いきもの・博物館～ | CISEネットワーク運営委員会・北海道セイヨウオオマルハナバチ対策推進協議会 | 1月21日～22日 | 参加・出展 |

博物館・図書館・教育委員会等との連携・連携

7件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|--|-------------------|---------------|------|
| 札幌市青少年科学館平成28年度夏の特別展「大発見！北海道恐竜展【ハドロサウルス類の進化の謎に挑戦】」 | 札幌市青少年科学館 | 7月23日～8月21日 | 共催 |
| 科学館クラブの特別展観覧対応 | 札幌市青少年科学館 | 7月10日 | 協力 |
| 平成28年度 エコミュージアム普及推進事業「北広島子ども学芸員」 | 北広島市エコミュージアム | 7月29日、8月6日 | 協力 |
| ミニトークショー | 札幌市青少年科学館 | 8月3日、8月12日 | 共同実施 |
| 啓成SSH in 光の広場 | 北海道札幌啓成高等学校SSH推進部 | 9月24日 | 共催 |
| 平取町立二風谷アイヌ文化博物館第22回特別展「沙流に受け継がれたアイヌの祭祀具」 | 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 10月15日～12月15日 | 協力 |
| 当館企画テーマ展「きれい？不思議？楽しい！？漂着物 ―北の海辺でお宝みつけ！―」のサテライト展示 | 札幌市青少年科学館 | 10月1日～11月27日 | 共催 |

市民・その他の団体等との連携・協力

4件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|--------------------|------------------|-------|-------|
| 北海道ジオパークまつり | 北のミュージアム活性化実行委員会 | 7月16日 | 共催・協力 |
| 蝦夷和紙プロジェクト | 蝦夷和紙プロジェクト実行委員会 | 7月23日 | 協力 |
| チ・カ・ホで体験！ジオパーク | 北海道・札幌市政策研究みらい会議 | 9月17日 | 協力 |
| 第31回野幌森林公園クマゲラー斉調査 | 野幌森林公園を守る会 | 3月4日 | 共催 |

民間企業等との連携・協力

6件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|--|------------------------|--------------|-------|
| 広報事業「イオンチャンネルにおけるデジタルサイネージ配信」「レジ de チャンネルにおけるデジタルサイネージ配信」「大型デジタルサイネージ配信」 | イオン北海道 | 7月～9月 | 共同実施 |
| NHK環境セミナー「ジオパークの海を学ぼう！」 | NHK室蘭放送局、様似町、様似町教育委員会 | 7月31日 | 共催 |
| 第1回まなぶんサマースクール「ジオパークへ行こう！」～アンモナイトから石炭まで1億年時間旅行を体験～ | 北海道新聞社 | 8月5日 | 共催 |
| 北海道ジオパークパネル展 | 北海道博物館(イオン北海道の協力により実施) | 8月13日～8月21日 | 共同実施 |
| 北海道ジオパークまつり in イオンモール札幌発寒 | 北海道博物館(イオン北海道の協力により実施) | 8月20日・21日 | 共同実施 |
| 北海道150年事業応援企画 北海道の名付け親・松浦武四郎の軌跡 | センチュリーロイヤルホテル | 11月1日～11月30日 | 後援・協力 |

学会および研究会への協力

2件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|---------------------------------|-------------------|---------------|----|
| 日本ミュージアム・マネジメント学会第21回大会エクスカージョン | 日本ミュージアム・マネジメント学会 | 6月17日 | 協力 |
| 第16回日本漂着物学会北海道大会 | 日本漂着物学会 | 10月22日～10月23日 | 共催 |

道外市町村等との連携・連携

1件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|------------------------|------------|-------|----|
| 東京シンポジウム2016—文化遺産を考える— | 堺市、国立文化財機構 | 5月14日 | 後援 |

国の事業への協力

1件

| 事業名 | 主催者・団体等 | 開催日 | 種別 |
|---------------------|------------|--------------|----|
| 北方四島在住の歴史文化専門家受入れ事業 | 外務省欧州局ロシア課 | 10月9日～10月16日 | 協力 |

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

ア 学術情報の集約

- ・ H28年度は現在の収蔵資料に関するデータの整備を優先課題とし、H27年度までに登録した資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を行うとともに、データベース化に着手し、先ず1980～90年代の民俗調査報告書のデータを公開する。

イ 発信基盤の整備

- ・ 情報システムの次期更新を見据え、アイヌ文化情報データベースのあり方を検討し整備を進める。
- ・ ホームページ上において、アイヌ文化の学習情報などのコンテンツの拡充を図る。

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備を進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。
- ・ ウェブサイトおよびツイッターを運営し、各担当グループなど担当者が館内の多様な情報を発信できるようにする。
- ・ 館内のICTの充実・活用を包括的かつ一元的に検討するため、ワーキングチームを立ち上げる。
- ・ ICTワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信力を強化する。

| | |
|-----------------|-------|
| ソーシャルメディアへの投稿件数 | 272 件 |
|-----------------|-------|

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ・ 図書室の基本的な機能を軌道に乗せ、職員向けの図書類の貸出をスムーズに行えるようにする。
- ・ 利用者からのレファレンスの受付時から担当学芸員への連絡、回答に至る流れを整理してマニュアル化し、レファレンス情報を集約し、館内での共有化の仕組みを作る。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|----------------|---------|--------|
| 写真の提供件数 | 70 件 | 98 件 |
| レファレンス件数 | 800 件 | 203 件 |
| アンケート、その他の利用件数 | 100 件 | 13 件 |

| | |
|-------------------|--------|
| 図書室の利用者数 | 4485 人 |
| 新規登録図書数 | 2344 冊 |
| レファレンス件数（図書室での受付） | 190 件 |

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。H28年度は次の2点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新を行うことにより、情報を発信し、アイヌ文化の照会窓口としての認知度を上げる。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化などを図り、記録と対応の蓄積を進める。

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ・ 博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施する。
- ・ 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ・ 博物館実習の内容についての効果測定を行い、その結果を反映させたより効果的な実習プログラムの構築に向けた取組を進める。
- ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

| | | | |
|----------------------|------|------|------|
| 博物館実習の受入 | 館務実習 | 受入件数 | 1件 |
| | | 参加人数 | 16人 |
| | 見学実習 | 受入件数 | 5件 |
| | | 参加人数 | 117人 |
| インターンシップの受入 | 件数 | 3件 | |
| | 参加人数 | 16人 | |
| 博物館学系研修会や技術研修会への参加件数 | | 5件 | |

(2) 外来研究員の受入

- 外部研究者や大学院生などを外来研究員として受入れるため、規定類の整備など体制構築を行う。

(3) 派遣研修

- 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会などに当館職員を参加させる。

1.4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

- 『北海道博物館研究紀要』及び『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。
- 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。
- ウェブサイトで『北海道博物館研究紀要』及び『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の公開を進めるとともに、過去の『開拓記念館研究紀要』や『道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』についても遡及して著作権についての処理を行い、公開可能になったものから順次公開を進める。
- 研究紀要の有償頒布の実現に向けた取組を進める。

| 『北海道博物館研究紀要』 第2号 | |
|------------------|---|
| 執筆者 | タイトル |
| 【研究ノート】 | |
| 水島未記・白石英才・丹菊逸治 | サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用 |
| 東 俊佑 | 安永7年の蝦夷地奉行定書について |
| 青柳かつら | 高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅱ)－独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題－ |
| 堀 繁久・栗林一寿 | 北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について |
| 山田伸一 | 下北半島風間浦村、大石神社の「蝦夷地・場所図」はどこを描いたものか |
| 【調査報告】 | |
| 添田雄二ほか | 小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅱ |
| 山崎真実・上村純平・水島未記ほか | 野幌森林公園のため池および水生植物相－2000年～2004年と2016年の調査から－ |
| 右代啓視・鈴木琢也ほか | 千島列島における人類活動史の考古学総合研究(Ⅱ)－特に北方四島の先史文化研究を中心に－ |
| 舟山直治・村上孝一・尾曲香織 | 兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承 |
| 山田伸一 | 開拓使によるキジ、ウナギ、ドジョウ、アユの移入について |
| 【博物館活動報告】 | |
| 栗原憲一・田村雅史 | 2016年度博物館実習において実施した来場者調査について |

| | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第2号 | |
| 執筆者 | タイトル |
| 【論文】 | |
| 大坂 拓 | アイヌ民族の刀帯—分類群の共時的分布と通時的変化— |
| 奥田統己 | 神謡と叙情歌の韻律的志向性—沙流地方の語り手の録音から |
| 佐々木利和・谷本晃久 | 『夷曾列像』の再検討に向けて—シモチ像と「叢覧」と— |
| 【研究ノート】 | |
| 甲地利恵 | アイヌ音楽における奇数拍節及び「音頭一同」形式との関係について |
| 【調査報告】 | |
| 大谷洋一 | アイヌ口承文芸「散文説話」—山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語— |
| 小川正人・遠藤志保・大坂 拓 | 鍋沢元蔵書誌 |
| 【資料紹介】 | |
| 大坂 拓 | 千島アイヌ製作のハマニンニク製容器—平成28年度新収蔵資料の紹介— |
| 田村将人 | 樺太アイヌ村落の生活および教育に関する視察復命書 |

| | |
|-----------------------|--|
| 特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行 | |
| 図録 | 北海道博物館第2回特別展 ジオパークへ行こう！—恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅— 展示・ジオパークまるわかりガイドブック |
| パンフレット | 第5回企画テーマ展 『アイヌ民族資料を守り伝える力』 |
| | 第6回企画テーマ展 『きれい？不思議？楽しい！？漂着物』 |
| | 第7回企画テーマ展 『あったかい住まい』 |

(2) 学会への発信

- ・ 学会・研究会などで発表し、学術雑誌へ投稿するなど、研究成果の積極的な発信を行う。

(3) 職員の対外貢献

- ・ 講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

(4) 外部機関との事業連携

- ・ 民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。
- ・ 道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などとリンクした研究を推進する。
- ・ 北海道150年事業への積極的な取組を検討する。

社会貢献の目標値と実績値は、次のとおりである。

| 設 定 内 容 | H28 目標値 | H28 実績 |
|------------------|---------|----------|
| 新聞・報道対応の件数 | 計 200 件 | 343 件 |
| 学会発表の件数 | | 31 件 |
| 学術雑誌等への寄稿の件数 | | 68 件 |
| 招待講演の件数 | | 63 件 |
| 各種委員・共同研究員等委嘱の件数 | | 60 件 |
| その他の件数 | | 19 件 |
| | | 合計 585 件 |

(6) アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。
- ・ H28年度に開催する「蔵出し展」などに資料調査の成果を反映させていく。
- ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ・ 「ちゃれんがニュース」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成

- ・ 運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力をより高めるため、各グループ間の事前調整や、資料のスリム化、事前配付を徹底する。
- ・ 事業の着実な推進を図るため、優先的に取り組む事業を明確にするとともに、事業の進捗管理を強化する。
- ・ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備について、検討を進める。

(2) 研究センター内の意思決定機関の育成

- ・ 研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。

(3) 道庁の支援体制の育成

- ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。

| | | |
|------|--------|---------|
| 内部視察 | 対応件数 | 103 件 |
| | 視察来館者数 | 1,019 人 |

【別添資料】

平成28年度アイヌ民族文化研究センター
事業報告（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示

以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。

- ① クローズアップ展示の運用
 - ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4のほか、他テーマでもアイヌの歴史・文化を主題とするクローズアップ展示を企画・実施し、アイヌ文化に関する展示を充実させる。
 - ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを早期から行う。
- ② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用
 - ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。
- ③ 展示資料の定期的な入替え
 - ・ 入替え計画を作成し、実施体制を整備する。
 - ・ iPadを利用して衣服を紹介する展示を実施し、画像更新の体制を整える。

| | |
|------------------|----|
| 総合展示の展示品の入替え件数 | 4件 |
| クローズアップ展示の件数 | 8件 |
| 「アイヌ文化Q&A」の入替え件数 | 0件 |

| | | |
|----------------|-------------------|--------|
| クローズアップ展示 入れ替え | 7件 | |
| (内訳) | クローズアップ展示① (1テーマ) | 1回(共同) |
| | クローズアップ展示③ (2テーマ) | 3回 |
| | クローズアップ展示④ (2テーマ) | 2回 |
| | クローズアップ展示⑤ (3テーマ) | 1回 |

2) 企画展等

- ・ H28年度に開催する蔵出し展の要項などを早期に具体化し、円滑な実施と内容の充実を図る。
- ・ アイヌ民族文化研究センターが主催する企画展示について、H29年度以降の開催計画を策定する。
- ・ 計画の策定にあたっては、研究成果やアイヌ文化関係者のニーズを踏まえた企画を検討するほか、道民とりわけアイヌ文化関係者が参画する機会を積極的に企画する。

| 展示会名称 | 期間 | 実績 |
|---------------------|------------------------|--------|
| 【蔵出し展】 アイヌ民族の造形美 | 平成28年12月22日～平成29年1月15日 | 1,632人 |

3) 巡回展

- ・ アイヌ文化に関する理解のいっそうの促進を図るため、道内市町村等との協力のもと、「地名」や「物語」などを主題にした巡回展を企画し、実施する。
- ・ 巡回展の開催にあたっては、地域的なバランスやニーズを踏まえて地域を選定し、研究センターの強みや当館が自然・歴史・文化の総合博物館であることを活かした関連事業を企画する。

| 巡回展名称 | 実績 | |
|--|-------------------|--------|
| 【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2016 枝幸 | 平成28年7月5日～9月4日 | 2,705人 |
| 【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2016 美幌 | 平成28年10月8日～11月27日 | 1,014人 |

2 調査研究事業

- ・ アイヌ文化に関する研究課題を、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト」と「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト」の体制に沿って整理するとともに、サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究にも参加する。
- ・ 研究内容とその成果提供を充実させるため、外部資金の獲得を目指す。

| アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4課題） | |
|--|--|
| ・ 北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（H26～29） | |
| ・ アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（H24～28） | |
| ・ 道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究（H22～28） | |
| ・ 道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（H28～31） | |

| アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4課題） | |
|--|--|
| ・ アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（H28～31） | |
| ・ 近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（H28～31） | |
| ・ 教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（H28～31） | |
| ・ アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（H26～31） | |

| 「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2課題） | |
|--|--|
| ・ 北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州） | |
| ・ 寒冷地の自然と適応—博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究—（カナダ・アルバータ州） | |

| 科学研究費補助金による研究課題（4課題） | | | | |
|----------------------|-------------------|-------------|--|-------|
| 継続 | スタート支援 | 平成 27～28 年度 | 北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究 | 甲地利恵 |
| 継続 | スタート支援 | 平成 27～28 年度 | アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究 | 遠藤志保 |
| 新規 | 基盤研究(B) 海外学術調査 | 平成 28～31 年度 | 資料返還をめぐる先住民と博物館との新たな関係性の構築に関する文化人類学的研究 | 出利葉浩司 |
| 新規 | 基盤研究(C) 一般 | 平成 28～30 年度 | 近代北海道・樺太におけるアイヌ民族による学校設置：その歴史的意味に関する基礎研究 | 小川正人 |

3 資料・情報の収集・整備事業

- ・ 調査研究計画の中に資料の調査を位置付けるとともに、各事業などと連動して資料調査を行うなど、組織的な調査体制を強化する。
- ・ 新規に受入れる資料などは年度前半に資料整理計画を策定し、登録及び保存などを実施する。
- ・ 「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録を進める。
- ・ 民具資料の整理は、H31年度までに完了するよう所管グループとも協議して計画を策定し、その作業は展示事業とも連動させ継続的に進める。

| | |
|------------------|-------|
| 収集・整備のための調査の実施件数 | 11 件 |
| 収集した資料の件数 | 307 件 |

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

- ・ プライバシー情報などを含む資料の公開手続きにかかる要領を定め、未公開資料の公開計画を策定する。
- ・ 上記を踏まえ、「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の公開を順次進める。

- 採録資料の公開作業を進め、年間公開点数の増加を図る。

| | | |
|----------|-------|-----|
| 公開した資料件数 | | 3件 |
| 目録の刊行件数 | | 0件 |
| 資料閲覧件数 | 全体 | 31件 |
| | 文書 | 6件 |
| | 音声・映像 | 13件 |
| | 民具 | 8件 |
| | その他 | 4件 |

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

- H28年度は現在の収蔵資料に関するデータの整備を優先課題とし、H27年度までに登録した資料のデータ整備を行う。
- 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を行うとともに、データベース化に着手し、先ず1980～90年代の民俗調査報告書のデータを公開する。

(2) 発信基盤の整備

- 情報システムの次期更新を見据え、アイヌ文化情報データベースのあり方を検討し整備を進める。
- ホームページ上において、アイヌ文化の学習情報などのコンテンツの拡充を図る。

| | |
|----------------|--------|
| アイヌ文化コンテンツの追加数 | 0件 |
| ホームページのアクセス数 | 4,000件 |
| ホームページ更新回数 | 0回 |

(3) 学習・伝承活動への支援

- 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。H28年度は次の2点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新を行うことにより、情報を発信し、アイヌ文化の照会窓口としての認知度を上げる。
 - ② レファレンス対応の記録票の定型化などを図り、記録と対応の蓄積を進める。

| | |
|-------------------|-----|
| レファレンス件数 | 60件 |
| 他機関、団体への学習・伝承支援件数 | 1件 |

5 成果の普及事業

1) 教育普及

- 館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、実施する種類と回数を段階的に増やしていく。
- グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。
- 館外に向けた情報発信や展示紹介をとおして、グループレクチャーの増加を図る。

| タイトル | 日時 | 担当 | 参加者数 |
|---------------------|------------------|------|------|
| アイヌ民族が伝えた ふしぎな話 | 7/23 13:30～15:30 | 遠藤志保 | 35人 |
| アイヌ文化にゆうもん講座 アイヌ語であ | 8/6 13:30～14:30 | 田村雅史 | 10人 |

| | | | |
|---|-------|-------------|-----------|
| そばう！〔枝幸町で開催〕 | | | |
| 枝幸町のアイヌ民族資料〔枝幸町で開催〕 | 8/11 | 18:00～20:00 | 大坂拓・佐々木利和 |
| じっくりムックリ講座 | 9/10 | 10:30～12:30 | 甲地利恵 |
| アイヌ語講座① アイヌの物語に親しもう | 10/2 | 13:30～15:30 | 大谷洋一 |
| アイヌ文化研究の最前線① ロミン・ヒッチ コックがみた北海道・アイヌ文化 | 10/9 | 13:30～15:30 | 出利葉浩司 |
| アイヌ民族の植物利用 イラクサの繊維を とってみよう | 10/15 | 13:30～15:30 | 大坂拓、遠藤志保 |
| ムックリを作って 鳴らしてみよう | 10/23 | 10:30～12:30 | 甲地利恵 |
| アイヌ語講座② アイヌの物語を聞いてみ よう | 11/6 | 13:30～15:30 | 遠藤志保、大谷洋一 |
| 総合展示「アイヌ文化の世界」を語る② ア イヌ民族の儀礼用冠 地域差と変化を探る | 11/27 | 13:30～15:30 | 大坂拓 |
| 総合展示「アイヌ文化の世界」を語る③ 「幻 の建設」に込めた意志ーバチラー八重子らに よる「アイヌウタリー中等学校建設」の活動 | 12/13 | 13:30～15:30 | 小川正人 |
| アイヌ語であそぼう！ | 1/21 | 10:30～12:30 | 田村雅史 |

| | | |
|----------------|----|-------|
| グループレクチャーの実施件数 | | |
| 全 | 体 | 173 件 |
| アイヌ | 関連 | 23 件 |
| はっけんプログラムの実施回数 | | |
| 全 | 体 | 236 回 |
| アイヌ | 関連 | 119 回 |

| | |
|----------------|-----|
| 上記以外に行った館内イベント | 2 件 |
|----------------|-----|

2) 研究成果の提供

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。
- ・ H28年度に開催する「蔵出し展」などに資料調査の成果を反映させていく。
- ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ・ 「ちゃれんがニュース」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

| | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第2号 | |
| 執筆者 | タイトル |
| 【論文】 | |
| 大坂 拓 | アイヌ民族の刀帯ー分類群の共時的分布と通時的変化ー |
| 奥田統己 | 神謡と叙情歌の韻律的志向性ー沙流地方の語り手の録音から |
| 佐々木利和・谷本晃久 | 『夷曾列像』の再検討に向けてーシモチ像と「叢覧」とー |
| 【研究ノート】 | |
| 甲地利恵 | アイヌ音楽における奇数拍節及び「音頭一同」形式との関係について |
| 【調査報告】 | |
| 大谷洋一 | アイヌ口承文芸「散文説話」ー山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語ー |
| 小川正人・遠藤志保・大坂 拓 | 鍋沢元蔵書誌 |

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 【資料紹介】 | |
| 大坂 拓 | 千島アイヌ製作のハマニンニク製容器－平成 28 年度新収蔵資料の紹介－ |
| 田村将人 | 樺太アイヌ村落の生活および教育に関する視察復命書 |

| | |
|--------------------|-------------------------------|
| 『北海道博物館研究紀要』 第 2 号 | |
| 執筆者 | タイトル |
| 【博物館活動報告】 | |
| 田村雅史（栗原憲一と共著） | 2016 年度博物館実習において実施した来場者調査について |

| | |
|-----------------|------|
| 「ちゃれんがニュース」の記事数 | 4 件 |
| 他機関の機関紙等での記事掲載数 | 2 件 |
| 道内市町村等との連携・協力件数 | 2 件 |
| 新聞・報道対応件数 | 4 件 |
| 講演依頼件数 | 16 件 |
| 各種委員への就任件数 | 16 件 |

6 その他

- (1) 「新聞・報道対応」のうち、道によるアイヌ文化普及啓発事業への協力・支援
 - ・北海道メールマガジン（広報広聴課）で連載
 - 北海道メールマガジン「Do.Ryoku（動・力）」のコラム（年間 13 回）
- (2) 「各種委員への就任」のうち、国によるアイヌ文化普及啓発事業への協力・支援
 - ・「平成 28 年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会」への職員派遣（1 回）
 - ・「平成 28 年度アイヌ語のアーカイブ作成支援事業」審査委員会並びに「平成 28 年度アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化事業（アナログ音声資料のデジタル化）」に係る審査委員会就任
- (3) 共同研究参加
 - ・国立歴史民俗博物館「総合資料学の創生と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」（参加職員：小川正人）